

日米外交を切り開く



日本のブルトニウム問題を巡り米専門家の意見に耳を傾ける猿田佐世さん。「外交ルートに乗りらない米日双方の多様な声を連携させたい」と語る
=9月12日、米ワシントン（撮影・川原千晶、共同）

憲法 ルネサンス

▷41

國際協調 平和主義

9月12日、初秋の米フシンにて。筋書きの下を吹く涼風が、木々と葉の音が響く。会議室は華やかで、窓辺の貴賓室や廊下には、連邦議員たちが並んで立つ。議長官の左側には、日本政府の代表として、元外相の佐世さん(40)が議会スタッフを前に、早口の英語で言葉を繰り返す。「レイバービル」の一室で、東京から来た弁護士、猪田さん(35)が、佐世さん(40)が議会スタッフを前に、早口の英語で言葉を繰り返す。「日本原子力協定について、議員から国務省に質問状を提出することを検討いただけませんか。公聴会開催の可能性はないががでしようか」と、スタッフが「検討してみた」と答えると、猪田さんは、「相好を崩しながら部屋を後にした。

日本原子力協定は、1988年以降、米政府は、日本原発54基を持つ世界3番目の原子力大国だつた。その後の盾は同調国の米国だ。

日本原子力福島第1原発事故の前、日本は原発54基を持つ世界3番目の原子力大国だつた。その後の盾は同調国の米国だ。

日本原子力協定は、1988年以降、本が原発の使用済み燃料を重理して核爆弾の原料となるブルトウムを生成するこ

ロビー活動

を担当する米国側の政策担当者は、専門家は正和國家（日本）のアーリー・ハイ・マントル保有を懸念している。

さんば
を往復
ツフヒキ

An aerial photograph showing a coastal town with various buildings, roads, and a sandy beach in the foreground.

「スイズを10軒近く回る
しかない。
詰米時は、シンボルジ
ムさんはとにかく累
ボイントをつまみ押
手の腰に飛び込んで

退任に追い込まれた。辻野吉が、移設に反対する声は、沖縄のみならず、全国的に高まっていたのだ。

猿田さんはこの過程を通して、日本メディアによって「ワシントンから発信される情報」が東京の政策決定や世論形成に大きな影響力をもたらす現状を間間見た。猿田さんはそれを「ワシントン拡声器」と表現する。

訪米した日本の国会議員団が、ワシントンで大物知りとされるとされる元米政府高官と会談し、シーザー・カーヴィーが唯一と伝達される。それがこの議員を通じて日本人特派員にアリーフされ、ワシントン発の記

弁護士が米でロビー活動



検証のため、建設中の使用済み核燃料再処理工場に入る裁判官ら＝2003年4月25日、青森県六ヶ所村

ノート
70年

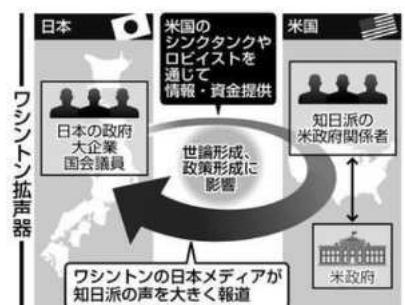
再処理工場巡り

市民ら提訴、続く裁判

核燃料サイクル事業は電力会社などが株主の日本原子燃が主体となり、青森県六

ケ所で、(1)フラン温縮炉、(2)セメント低レベル放射性廃棄物貯設施、(3)高レベル放射性廃棄物貯設施、(4)性廃棄物貯蔵管理センター、(5)核燃料サイクルの再処理工場等は建設中。年間生産量と支援費は、89年以降、全生産が不十分になると見られており、(1)～(4)の国事許可取り消しなどを求める訴訟を青森地裁に

工した結果の(4)の推進は着工した95年で、地盤は着工3年に工場を検証。その際日本原燃は核物質防護法上の理由で主工事の検証を拒んだが、その後報道機関を公開したことから、9月に再検証があった。9月の第100回口頭弁論会議では原創側が耐震性を問題視する新たな主張をした。



埋め立て工事が進む米軍普天間飛行場移設先の名護市辺野古沿岸部
=7月23日(共同通信社撮影から)

ワシントン拡声器
猿田さんはニューヨークのロースクールに通つて2009年に現地で弁護士登録。その後ワシントンに移り、大学院で3年間、国際政治と国際

議員オフィスを10軒近く回ることも少なくない。9月の詫米時は、シンボジウムで猿田さんを繰り返した。敢。話のポイントをうまく押さえ、相手の懐に飛び込んでいく。そしてゲイツどこちらの関心に相手を引きつけるのが、9月の詫米時に得た市民団体「原字力資料情報室」の松久保肇さん(38)は、プロのロビリスト顔負けの対議会口

訪問した日本の国会議員が、ワシントンで太田知日元外相とされる元米政府高官と会談し、「野野村が唯一」と伝達される。それがこの議員を通じ日本人特派員にアリーフされ、ワシントン発の記事として日本で大々的に報じられる。日本の政財と通じる一握りの日本派の声ばかりが大差なく伝えられる日本同盟の現実。『米国の声とは何なの?

基地や原発、市民目線で

紛争解決を学んだ。この時から講演会などのロビー活動や政策提言を続いているが、そのエネルギーの多くを沖縄の在日米軍基地問題に割いてきた。

猿田さんは最初に突き動かしたのは、米軍普天間飛行場の建設問題で、1972年文部省による